

群馬県立榛名高等学校 学校評価一覧表①（令和4年度版）

（様式1）

（様式1）

羅針盤			方 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①「チャレンジハイスクール」の取り組みを理解し、学習・体験学習・行事に積極的に参加する生徒が80%以上である。	・基礎基本学習、体験型自己開発学習（体験活動、資格取得）、人間づくり学習（あいさつ、身だしなみ、ボランティア活動、学校行事への参加）の3つの柱を意識した教育活動を、学校生活の様々な場面で展開する。 ・生徒の実態に即し、成長を促すような授業や学校行事、体験活動の取組を工夫する。
		②コース別の特色ある学習活動に満足（期待）している生徒が80%以上である。	・各コースの特徴を生かし、生徒が興味・関心を持って取り組める学習内容を工夫し、学びへの関心を高める指導を行う。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が、80%以上である。	・学校行事、生徒会行事、部活動、ボランティア活動等への自主的な参加を通して、学校に誇りや関心が持てるようにする。 ・生徒の様子を観察し、必要に応じて声かけや話を聞くなどすることで、生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導を行う。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④基礎基本が身に付いたと感じている生徒が、80%以上である。	・短時間集中授業、少人数・TT等、多様な形態の授業を取り入れ、基礎基本学習の充実を図る。 ・小中学校の学び直しの授業、わかる授業への授業改善を推進する。
		⑤資格取得に挑戦する生徒が90%以上である。	・国語、数学、英語、商業、家庭等様々な教科・科目で、資格取得を踏まえた授業を進め、生徒の資格取得への意欲を高める。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥生徒情報交換会や学年会議が月1回以上開かれている。 ⑦あいさつがしっかりとできると感じている生徒が80%以上である。	・生徒個々の情報を共有し、全職員の共通理解の上で「個」に応じた指導をする。 ・登校時や授業の開始終了時等のあいさつを指導し励行する。 ・職員から積極的にあいさつし、校内であいさつが交わされやすい雰囲気醸成する。 ・朝の「あいさつ運動」を定期的継続的に行う。 ・生徒会や風紀交通委員等、生徒自身が率先して挨拶運動を実施する。
		⑧学校安全管理マニュアルを確認し、校内の美化、安全点検を定期的実施している。	・毎月「月例清掃」を実施し、生徒が校内美化や安全についての意識を持ち、積極的に取り組めるよう指導する。 ・学校安全管理マニュアルを見直し、確認のシミュレーション（訓練）を年2回実施することで職員の共通理解を徹底する。
		⑨いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていると感じている生徒・保護者が80%以上である。	・定期的に「学校生活（いじめ）に特化したアンケート」を実施し、生徒間のトラブルを早期に発見・解消する。 ・必要に応じ、二者面談を実施し、生徒の学校生活全般をサポートする。
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑩全校の遅刻率3%以下、欠席率が4%以下である。 ⑪悩み、困りごとがあるときは先生やスクールカウンセラーに相談できると感じている生徒が80%以上である。	・家庭と連絡を密にし、保護者と連携を図って、基本的な生活習慣の定着を目指した指導を行う。 ・カウンセリングルームを活用し、悩みや困り感の解消の手助けをしながら、学校適応指導を行う。 ・毎月末を、生徒自身が自己の学校生活を点検する「学校生活点検日」とする。 ・定期的に二者面談を実施し、相談しやすい環境を作る。
		⑫外部講師を活用した進路行事を年3回実施する。	・発達段階に応じたキャリア教育を推進するために、必要な知識を持った外部講師に講話等を依頼する。 ・地元企業関係者や卒業生を講師として積極的に活用する。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬進路行事に積極的に参加していると感じている生徒が80%以上である。 ⑭生徒の進路希望に理解を示している保護者が80%以上である。	・体験型自己開発学習として、1学年で「福祉体験」「上級学校体験」、2学年で「職業体験」、3学年で「進路研究」を行う。 ・進路希望調査の結果をもとに、三者面談等を実施し三者の共通理解を図る。
		⑮学校の取り組みをよく理解しているという保護者が、80%以上である。	・学年通信、保健便り、図書館便り等の各種の便りを定期的に発行するとともに、メール配信システムの活用を通して保護者に学校の様子がしっかりと伝わるようにする。 ・ホームページの充実とメディアの活用による地域への情報提供を図る。 ・学校行事への保護者の参加を呼びかけ、協力して生徒を育てる態勢をつくる。 ・PTA総会、講演会、三者面談等、保護者が学校に向かい学校の様子を知る機会を積極的に計画する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯外部講師を活用した進路行事を年3回実施する。	・発達段階に応じたキャリア教育を推進するために、必要な知識を持った外部講師に講話等を依頼する。 ・地元企業関係者や卒業生を講師として積極的に活用する。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・体験先と連携をとりながら、就業体験を実施することができた。しかし、アンケート結果で進路に満足できる生徒が65%前後と低く、将来への不安を抱えていたり、ぎりぎりまで進路を考えない生徒が増加していることも予想される。コロナの状況を見極めながら今後の体験学習に力を入れ、進路意識を高めていきたい。 ・進学においては三者面談において、指定校の情報や入試情報を生徒・保護者に提供できた。 ・就職の求人情報提供は冊子や図書館に掲示してある求人票で確認してもらっている。今後は新たな情報提供の方法を探していきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ICT機器を使った授業が80%以上である。	・学校の様子が伝わっていると答えた保護者が83%に達した。これはメール配信システムやホームページを活用して、保護者に学校の様子を伝える努力を継続してきた結果であると思われる。今後も情報の発信をこまめに行っていくたい。 ・PTA本部役員の協力のもと、保護者と協力して生徒を育てる活動を、感染症対策をしながら、今後も行っていきたい。 ・夏季休業中に全保護者と三者面談を行うことができ、担任から学校の様子を伝えることはできた。引き続き様々な場面で学校の様子を伝えていきたい。
		⑱オンラインによるアンケートを年間2回以上実施している。	・ゲームフォーム等を使ったアンケートを作成、生徒に実施することで、集計の効率化を図る。 ・ゲームフォーム等の使い方を職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ICT機器を使った授業が80%以上である。	・パワーポイントや画像や動画などの教材をプロジェクターで投影する形態の授業を取り入れ、生徒の興味・関心を喚起する。 ・クロームブックの使い方を職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。
		⑳オンラインによるアンケートを年間2回以上実施している。	・ゲームフォーム等を使ったアンケートを作成、生徒に実施することで、集計の効率化を図る。 ・ゲームフォーム等の使い方を職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。

第1回点検・評価				第2回点検・評価			
自己評価	外部アンケート	改 善 策		自己評価	外部アンケート	改 善 策	
A	A	・昨年よりは行事を行うことができ、生徒・保護者からの評価もそれなりに高くなった。2学期以降も多くの行事が予定されているので、感染症対策を行った上で、全職員協力のもと充実した行事・学習となるように、事前準備、事後指導を充実させていきたい。		A	A	・今年度はコロナウイルス等感染症対策に取り組みつつ、できるだけ多くの活動の機会を設けることができた。中止もしくは規模を縮小して行った行事もあるため、今後も生徒が充実した学校生活を送れるように、指導の工夫・改善に努めたい。総合的な探究の時間においては、課題の設定から情報収集、各活動の振り返りを繰り返し行うことで、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指したい。	
A	A	・85%以上の生徒・保護者からコース別の学習に満足（期待）しているという結果が得られた。さらに活動を充実させることで満足度を高めていきたい。		A	A	・年間を通して本校のコース別学習に満足（期待）しているという回答が85%以上得られた。新教育課程初年度に対応した取り組みを実施できたので、次年度以降さらに満足した学習を生徒ができるように、コース制の充実を図っていきたい。	
A	B	・90%の保護者が自分の子が学校を好きだと考えているのに対して、生徒の評価は65%と低くなっている。学校を好きでない理由は、人間関係や勉強面での悩みであると思われる。教育相談や生徒観察を充実させるとともに、分かりやすく、個に応じた授業を心がけることで改善していきたい。		B	B	・生徒と保護者・教職員との評価に差がある。教職員→保護者→生徒の順に評価が低くなっている。教職員は多くの生徒が学校を好きだと考えているが、実際は3割以上の生徒が学校が好きではないと考えていることが問題点である。悩みを抱えた生徒たちに対し、教育相談的なアプローチとともに、生徒が学校を好きになるような活動を増やしていくこと今後の課題である。	
A	A	・教員としてはもう少し基礎基本を身につけて欲しいと考えているが、生徒・保護者としては満足しているという結果が出た。基礎基本学習を繰り返し行っていることの成果が見られると思われる。生徒の意識をさらに高め、学力の向上も目指したい。		B	A	・基礎基本学習の徹底を図ってきた結果、外部アンケートでは80%以上の達成度となった。教職員の評価はBとなっていることも、もって生徒に伸びて欲しいと考えている結果なので、悪い評価ではないと考える。スタディサプリ及びクロームブックの活用を通して引き続き基礎基本学習を徹底していきたい。	
A	A	・資格取得に積極的に取り組んでいる生徒もいるが、コースによっては学習内容の違いから資格取得に取り組めていない生徒も少なからずいる。保護者からの評価が68%と低いので、検定に取り組んでいることが保護者に伝わるよう、案内をしていきたい。		A	B	・積極的に資格取得に取り組む生徒が増えてきている。結果に結びつくには時間のかかる生徒も多いので、根気強く指導していくことが重要である。総合コース及び1年生へ資格取得の挑戦を促すことで、さらに生徒の意欲を高めた。また保護者に向け検定への取り組みや結果についても連絡網を活用するなど広く情報を発信していきたい。	
A	A	・生徒情報などは、全職員が共通理解できるよう、職員会議や学年会議等で情報共有の場を設けている。緊急性のある場合等については、個別会議を開き、組織で対応することを心がけている。 ・挨拶は、90%近くの生徒がしっかりと行っているが、やや声が小さいので、今後は生徒からの大きな声での自主的挨拶を促していきたい。		A	A	・生徒の欠席率や遅刻率がコロナの影響により増加傾向が続いている。 ・悩みを抱えた生徒のカウンセリングが生徒の学校生活適応に役立っている。今後も、「学校生活アンケート」（いじめ防止対応）等、継続していきたい。 ・毎月の生活指導週間では、朝の登下校時に職員、風紀交通委員、生徒会役員で生徒玄関に立ち「朝の挨拶運動」を行っている。生徒間同士でもさわやかな挨拶が交わされている。	
A	B	・校内美化に対する意識が高められるよう、身の回りの整理整頓、細部の清掃を徹底し、日頃の清掃を丁寧に行うと共に、毎月の「月例清掃」を継続していきたい。 ・第2回の避難訓練を実施するとともに、普段から緊急時の対応や避難経路、避難場所について周知し、生徒の意識を高めていきたい。		A	A	・校内美化に対する意識が持てるよう、まずは身の回りの整理整頓や細部の清掃を徹底し、普段行っている清掃を丁寧に行うと共に、毎月実施している「月例清掃」の充実を図ってきたい。 ・4月に地震を想定した避難訓練、11月に火災を想定し、消防署の指導も受けた避難訓練を行い、避難経路や避難場所など緊急時の対応について周知できた。来年度も、生徒の防災意識が高められるよう実施していきたい。	
A	B	・学校生活アンケートや月一回の学校生活点検日のアンケート等を実施し、いじめの早期発見に努めた。また生徒間トラブルについては、組織で対応し早期対応・解決を心がけた。しかし加害側の保護者の理解を得る事に苦慮する場面があり、対応を慎重に進める必要があった。 ・学校生活アンケートや面談を実施しても、生徒が教師に相談しない・できない事が推測できるので、今後は生徒から不安や悩み等をいかに引き出すかを検討する必要がある。		A	B	・いじめの早期発見・防止のため、年に3回「学校生活アンケート」を、また年8回「学校生活点検日」を設け、生徒のいじめや悩み・不安の早期発見に努めている。しかしながら、学校評価アンケートでは、生徒が教員に悩み等を十分に相談できていないと感じている実態がある。二者面談等を適宜行い、また生徒が話しやすい学校づくりを目指したい。	
A	B	・1学期の遅刻率・欠席率は、昨年度よりもやや改善している。 ・本校には、特別な支援や配慮が必要な生徒が大変多いため、スクールカウンセラー等の専門的なカウンセリングやサポート及び、通級等の支援が必要である。また、生徒の段階的な成長を促すサポート等を全教員で共有する必要性が年々増加している。		B	B	・今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、欠席・遅刻等の欠席率は、増加傾向を示した。 ・今年度は、SCから「発達の特性的な生徒の指導について」の研修を実施した。また自死防止に関しては、必要に応じてケース会議を開き、対応している。心配な生徒に関しては、長期的なサポートが重要である。 ・また来年度は、生徒指導に関する重大な案件等の発生に備えて、緊急体制マニュアル等の作成を検討している。	
/	/	・コロナ禍でも実施方法等相談しやすいPTA・同窓会の指導から依頼し、毎年行っているハローワークによる志望動機・面接指導まで実施できた。 ・コロナ感染防止に配慮しながら外部講師の活用ができた。今後は実施方法を考えながら進路指導に活用していきたい。		/	/	・外部講師が来校できなくても、オンラインでの開催が定着してきたのでコロナによる中止がなくなった。今年度も企業説明会はオンラインでの開催が決定している。 ・先輩と語る会については来校での開催を計画しているので、開催方法を十分に検討していきたい。	
B	B	・体験先と連携をとりながら、就業体験を実施することができた。しかし、アンケート結果で進路に満足できる生徒が65%前後と低く、将来への不安を抱えていたり、ぎりぎりまで進路を考えない生徒が増加していることも予想される。コロナの状況を見極めながら今後の体験学習に力を入れ、進路意識を高めていきたい。 ・進学においては三者面談において、指定校の情報や入試情報を生徒・保護者に提供できた。 ・就職の求人情報提供は冊子や図書館に掲示してある求人票で確認してもらっている。今後は新たな情報提供の方法を探していきたい。		B	B	・体験学習はキャリア教育に欠かせないので、中止にならないよう最善の方法をとってきたい。今年度も多くの地元企業に協力してもらい、生徒に体験する場を与えることができた。また、今年度の体験学習は例年より遅らせて実施した。実施時期については、修学旅行日程、企業の受け入れ易さ等考えながら計画を立てていきたい。 ・担任が三者面談時に必要な情報を提供し、生徒と保護者の進路希望がみえてきたり、具体的な対策が立てられるように協力していきたい。	
A	A	・学校の様子が伝わっていると答えた保護者が83%に達した。これはメール配信システムやホームページを活用して、保護者に学校の様子を伝える努力を継続してきた結果であると思われる。今後も情報の発信をこまめに行っていくたい。 ・PTA本部役員の協力のもと、保護者と協力して生徒を育てる活動を、感染症対策をしながら、今後も行っていきたい。 ・夏季休業中に全保護者と三者面談を行うことができ、担任から学校の様子を伝えることはできた。引き続き様々な場面で学校の様子を伝えていきたい。		A	A	・80%以上の保護者には学校の様子が伝わっている。メール配信システムを活用して、保護者に学校の様子を伝えてきたことが功を奏している。生徒がもっと学校の様子を理解できるよう工夫が必要である。 ・今年度は行えなかったが、PTA本部役員に協力を依頼し、保護者と協力して生徒を育てる活動を今後も行ってきたい。 ・夏季休業中に全保護者と、1月には1学年の全保護者と三者面談を行い、担任から学校の様子を伝えることができていた。今後もいろいろな場面で学校の様子を伝えていきたい。	
A	A	・クロームブックなどを授業に活用しているが、教師も生徒もある程度評価しているが、保護者には伝わっていないことがわかる。機会あることに学校でICTを活用した指導を行っていることを伝えていきたい。		A	A	・ほとんどの教職員がクロームブック等のICT機器を活用することを始めている。導入間もないので手探り状態ではあるが、着実に進歩はしている。生徒の方がクロームブックの活用に対しては積極的なので、職員のスキルアップと生徒のリテラシー向上が今後の課題である。	
/	/	・ゲームフォーム等を使ったアンケートを作成、生徒に実施することで、集計の効率化を図る。 ・ゲームフォーム等の使い方を職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。		/	/	職員・生徒に対する学校評価アンケートをクロームブックで行うことができ、大幅な業務改善となった。今後は保護者に対しても導入できるかを検討していきたい。その他、ゲームフォームを使ったアンケートなどを各分掌で積極的に取り入れていくことも業務改善につながると考える。	